

研究実施報告書

1. 研究の目的

はびね周南 GH は 20 代 30 代の若年スタッフが非常に少なくスタッフの高齢化が進んでいます。10 年 20 年先を見据えた時に、今のうちに若いスタッフが入職できるような環境を整えていくことが急務と考えました。下松市やその周辺の方々にどうやって施設を認知してもらうか、福祉の仕事に興味を持ってもらうか考えた時に、まずは PR の方法を検討するところから始めてはどうだろうかと考えるに至りました。

2. アンケート内容及びアンケート結果

①介護の仕事に興味がありますか？（選択式） 全 293 名中

ある 29 名 ない 264 名

②介護の仕事のこういったところに興味をお持ちですか？（記述式、一部抜粋）

*①であると答えた方

- ・高齢者のお世話をする人でやりがいがありそう
- ・利用者さんに喜んでもらえるところ・こういった仕事を知りたい ・需要がある仕事
- ・人とのつながり ・話しをするのが好きだから ・母がやっている ・人を支える点
- ・お年寄りと話すと学び得られる事がある ・自分の人生、未来を考えれる
- ・姉がしていた ・祖父母がサービスを受けているので興味がある
- ・デイサービスに 1 回行ったときに良いなと思った・利用者が自立できるようになっていく様子

③現時点で介護施設を職場として選ぶとして。ご自身が選ぶ基準となるもっともあてはまる項目に○をしてください（選択式） *①であると答えた方

- ・人間関係 9 名 ・やりがい 6 名 ・働きやすい職場か 5 名
- ・給与面 3 名・その他 4 名

④介護のワークショップ（参加体験できる場）等あれば参加してみたいですか？

（選択式） *①であると答えた方

はい 18 名 いいえ 11 名

⑤介護の仕事にどういった印象をもっていますか？ (記述式)

- ・やりがいがありそう ・人と関わって温かい ・コミュニケーション能力が必要 ・休みがない ・気遣いが大変そう
- ・家族とのトラブル ・人間関係が悪そう ・夜勤が辛そう ・理不尽なことがあるそう
- ・なくてはならない仕事だから給料を増やしてほしい ・心の広い人にしかできない ・興味がないから印象もない
- ・責任が重そう ・無資格でも働ける ・3K ・ストレスが溜まってしまわないか
- ・姉が介護職、過労で倒れたので人手不足、ブラックなイメージ ・テレビのニュースでは職員による暴力や殺人事件が起きていて良いイメージがない ・身の回りの事だけでなく人の心に良い影響を与える仕事 ・めんどくさい
- ・老人と戯れる、怒鳴られる ・頼りになりそうな人たち。作り笑顔をしないとイケない
- ・人の命を預かる責任の大きい大切な仕事 ・相手が人なのでトラブルがありそう
- ・スキルが必要な細やかな仕事 ・機械にはできない重要な仕事 ・仕事には困らない資格 ・大変そうがかなり多い

⑥今後どんな職場でもいいですが、働くとして、その職場や仕事に何を期待しますか？ (選択式)

- ・良い同僚や、良い上司 61名 ・給与が良い 51名 ・やりがいや働き甲斐 45名 ・楽しく、明るい職場環境 45名
- ・残業が少ない 10名 ・成長できる 8名 ・資格が取れる 2名 ・その他 2名 (風通しの良い職場、自宅から近い)
- ・回答なし 17名 ・無効回答 52名

⑦普段情報を得るための方法を教えてください

- ・SNS 128名 ・web サイト (ブログ) 36名 ・テレビ 13名
- ・その他 6名 (youtube,スマートニュース, yahoo!, chatGPT google 等)
- ・情報誌 3名 ・新聞 1名 ・雑誌 1名 ・無効回答 44名 ・回答なし 17名

⑧情報を得るために使用しているアプリを教えてください。

- ・X (旧 Twitter) 70名 ・Instagram 65名 ・TikTok 54名 ・その他 33名 (google,youtube,safari 等)
- ・Facebook 0名 ・Threads 0名 ・無効回答 38名 回答なし 20名

⑨「介護」「PR」に関する自由記述 (記述式)

- ・職場体験が出来る、介護に対するイメージが持てる
- ・デジタル面、アナログ面両方でPRすることで調べやすくなるのでは？
- ・大変な部分だけではなく、良いところをもっと伝えたいと思えると思う
- ・しもの世話は大変なのか
- ・介護するときは両方を守るためにカメラを設置するべきだと思う
- ・介護にはどのような接し方がいいですか？

- アンケートは県内外の高校5校に伺い、対象はいずれも高校3年生としています。
- アンケート結果を通して、内容を分析したものを考察とし、考察より得られたものを結論としています

- 今回の研究は学生に実施したアンケートだけではなく、自施設を自己評価するアンケートも実施しましたがこの報告書では割愛しています。

3, 考察

- ① アンケートの結果を見ると、介護の仕事に興味があるという方は全体で見ると約9, 9%だったが、県外の学校を除くと5, 8%に下がった。地区的にみると介護の仕事に興味をもっている若年者はかなり少ないことが示された。自己分析でも施設周辺は地域的に工業系の企業が多く、就職するなら企業でという学生、若年者が多いのではないかとあったが、アンケート結果の数値からも関連付けられた。また、今後自施設を PR する時には介護の仕事に興味を持っている少ない方々に訴求していかなければならない事を実感した。
- ② 「介護の仕事のどういったところに興味を持っているか?」という問いでは、「喜んでもらえるところ」「人を支える点」「話す事で学び得られるところがある」「人間関係として会話が好きだから」といったコミュニケーションをとることに興味を持っている方もいた。自施設を PR していく際には「利用者様とのコミュニケーション」そういった内容にすることで興味をもってもらえる可能性が考えられた。
- ③ 「現時点で介護施設を職場として選ぶとして、ご自身が選ぶ基準となる最もあてはまる項目は?」という問いでは、人間関係が最も多かった。母数が少ないので対象者の属性が変わることで変化をすると思うが、介護の仕事に興味があると答えた方の約31%が人間関係を重視している結果になった。今後自施設を PR する際に人間関係の良さ(自己分析でも自施設は人間関係の良さが指摘されていた)をアピールしていくと効果的な事が示された。
- ④ 介護の仕事にどういった印象をもっていますか?という問いではポジティブな点、ネガティブな点、中にはセンシティブな内容もあり、今現在の「介護」に対する若年者の印象を聞き取ることができた。結果として「大変そう」がかなり多かった。特徴的でポジティブな内容として、「スキルが必要な細やかな仕事」「機械にはできない重要な仕事」「頼りになりそうな人達」「人の命を預かる責任の大きい大切な仕事」「身の回りの事だけでなく人の心に良い影響を与える仕事」といった内容が聞かれた。
特徴的でネガティブな内容として「興味がないから印象もない」「3K」「怒鳴られる」「テレビのニュースでは職員による暴力や殺人事件が起きており良いイメージがない」「姉が介護職、過労で倒れたので人手不足、ブラックなイメージ」という内容だった。意見としてはネガティブなイメージの意見が多かった。PR するとして、特にこういったネガティブな印象をどう払拭していくのかがとても大切、これは福祉業界全体の問題ではあるが、地方の1施設として地域福祉にどう寄与していくのか、若年者に対しどう伝えていくのか、機会があるごとに考えていき、発信していくことが求められていると考える。
- ⑤ どんな職場でもいいですが働くとして、その職場や仕事に何を期待しますか?の問いでは「良い同僚や、良い上司」がもっとも多く全体の約20%だった。次に「給与が良い」が約17%、「やりがいや、働き甲斐」「楽しく、明るい職場環境」が約15%だった。また「その他」を選んだ方には「風通しの良い職場」と記載していた方もおり、給与も勿論大切ではあるが、「人を含めた良い環境」が職場の環境として求められている事が示された。
- ⑥ 「良い環境で働きたい」ということが選ばれている辺り、現在周南で取り組みを進めているスタッフのサークル活動を PR することも有用であると考えられる。
- ⑦ 普段情報を得るための方法を確認した問いでは当初予想していた通り SNS が51%と半分以上を占めた結果となり、次にブログが15%となった。SNS に関してはどの高校も一番多かった。今の時代はスマートフォンやタブレット端末を用いて容易に知りたい情報へアクセスできる。若年者へ向けた PR の直接的な一つの方法として、SNS を利用するのは効果的であることが示された結果となった。
- ⑧ 情報を得るために使用しているアプリを確認した問いでは「X(旧 Twitter)」が24%と最も多く、「Instagram」が22%、続いてTikTokが18%となった。高校によっては「Instagram」が一番多かった所もあった。今後自施設PRをしていく手段の一つとしてこの3つが候補になると考える。

4, 結論

- ① アンケート結果を受け、自施設周辺では介護の仕事に興味を持っている若年者は少ないと考えられるが、自施設の強みである「人間関係の良さ」といった「人も含めた良い環境」を PR していく。
- ② 自施設の PR の為 SNS の使用を今後すすめていきたい。内容としてはポジティブな面、ネガティブな面も含めた「介護の仕事の実際(動画も含める)」「介護を体験できるワークショップの開催とその告知」「介護の仕事を生近に感じられるような内容」「介助者の身体的な負担を軽減できる機器や道具」等 PR していきたい。